

# 令和5年度事業計画

自 令和5年4月1日  
至 令和6年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

## 目 次

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(5)
3. 編集委員会	(6)
4. 学術委員会	(7)
5. 統計調査委員会	(8)
6. 専門医制度委員会	(9)
7. 国際学術交流委員会	(10)
8. 評議員選出委員会	(11)
9. 保険委員会	(11)
10. 倫理委員会	(12)
11. 腎不全総合対策委員会	(12)
12. 危機管理委員会	(12)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(13)
14. 男女共同参画推進委員会	(14)
15. 感染対策委員会	(15)

## 1. 総務委員会

### 1) 年次学術集会

第 68 回日本透析医学会学術集会・総会は、大分大学医学部附属臨床医工学センター 診療教授 友 雅司 会長が主宰し、2023 年 6 月 16 日（金）、17 日（土）、18 日（日）の 3 日間、神戸コンベンションセンター（神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル）を会場として開催する。

今回のテーマは「知行合一 技術の実装と知識の実践」を掲げて開催する。

#### 〈特別講演〉

「温故知新～日本の透析療法の歴史を語る～」、「血液浄化におけるパラダイムシフト」、「腎臓再生医療の現状と課題」、「AI 活用の基礎的リテラシー」、「重症化予防と共同意思決定の推進に向けて」、「目前に迫る異種腎移植」、「透析医療における臨床工学技士の業務拡大と今後の展望」、「現代によみがえる陽明学：現代日本人最大の忘れ物「心」を取り戻すために～吉田松陰先生を通して～」、「末期慢性腎臓病の診断および治療における血中タンパク質 AIM の意義」

#### 〈招待講演〉

「Latest trends in on-line HDF」、「Kidney replacement therapy in the world」、「Dialysis situation in Kenya」、「A New Definition of Uremic Toxicity」、「Experience and Evaluation of Antioxidant Functional Membranes in Europe」

#### 〈会長講演〉

「透析医療における「知行合一：技術の実装と知識の実践」

#### 〈会長特別企画〉

「a1MG～温故知新」、「化学プール透析の基礎と未来への展望」、「鼎談「少し血液浄化の話をしましょうか！～若手技術者・研究者に向けたメッセージ～」

#### 〈教育講演〉

「透析液清浄化と排水管理の最前線」、「透析患者に合併した心房細動の管理」、「透析室管理指針～チーム医療、迷惑行為対策、ACP、SDM、CKM」、「透析患者の健康寿命をどう捉えるか?」、「機械学習や人工知能の必要性とその活用法」、「生体腎移植ドナーの移植（ドナー腎摘出）後の腎機能と予後」、「世界と本邦のガイドラインを用いて腹膜透析を行う」、「透析患者のスキンケア～皮脂欠乏症診療の手引き 2021 を踏まえて～」、「透析医療における 2 つの安全マネジメント～ Safety-I と Safety-II 」、「アフレスス療法の最新の話」、「高齢透析患者の意思決定支援」、「透析患者への骨粗鬆症治療」、「各ガイドラインにおける急性血液浄化療法」、「医療現場で役立つ質の高い臨床研究」、「blood volume 計を用いた細胞外液の過剰量（OH）の測定」、「透析患者の運動療法～多職種で関わる運動支援～」、「透析医療現場での倫理指針」、「透析患者のリコントロール～Up to date～」、「行動変容をもたらす医療コミュニケーション」、「改めて考える HDF の適正設定」、「透析患者の足病について」、「新しい心不全治療薬」、「糖尿病性腎症と糖尿病性腎臓病」、「透析室感染管理」、「高齢者のバスキュラーアクセス」、「療養生活における行動変容への支援のあり方」、「Patient-reported outcome をどう評価し対応するか」、「透析患者と関わるスタッフのケア～看護職に焦点をあてて～」、「在宅訪問医から診た透析医療」、「透析患者への漢方薬の使い方」、「透析中の多発性嚢胞腎患者の管理」

#### 〈シンポジウム〉

「CKD-MBD ガイドライン改訂に必要なデータを吟味する」、「チームで行うポリファーマシー対策」、「末期腎不全患者における新しい栄養管理」、「高齢化社会における腎代替療法を再考する」、「透析患者における不整脈対策」、「透析患者の喪失に対するサイコネフロロジー」、「透析導入疾患の変遷」、「透析装置の運転補助機能の功罪とこれから」、「透析腎癌の最新の知見」、「急性腎障害（AKI）：心不全に伴う WRF、AKD（Acute Kidney Disease）について、薬剤（特に免疫チェックポイント阻害薬）」、「血管石灰化の新たな成

因と治療戦略」, 「在宅血液透析における遠隔医療の可能性」, 「腎硬化症による透析導入患者の減少は可能か」, 「Now and Future of International Development of Hemodialysis Technology Support」, 「VAIVT 新治療戦略」, 「HD とオンライン HDF の生命予後 Up to date」, 「長期透析患者に対する腎移植」, 「血液浄化におけるモニタリング技術の進歩とその有効活用」, 「透析患者における終末期医療・介護と Advanced Care : 透析患者の Planning」, 「生体ドナーの透析導入にまつわる諸問題」, 「もっと自由に, 心のままに～男女共同参画～」, 「新資格「腎代替療法専門指導士」がもたらしたもの」, 「透析医療をいかに学生に教育するか」, 「透析患者における血圧コントロールを考える」, 「認知症, せん妄患者の透析室での対応」, 「腎代替療法導入後の腎原疾患の病態と再燃, 再発への対処」, 「International Symposium with VAS, VASA, APSDA, GeMAV and ASDIN」, 「令和 6 年診療報酬への期待」, 「透析患者重症化予防へ向けた取り組み」, 「長期安定した PD を達成するための課題解決」, 「低体重血液透析の進化」, 「透析患者における貧血治療最前線」, 「わが国に適した在宅血液透析専用装置のコンセプトと周辺技術開発の展望」  
〈合同企画シンポジウム〉

「サイバーセキュリティの現況と対策 特に透析関連施設について」, 「腎臓リハビリテーションを普及させるためには??」, 「血液浄化療法における AI の実装と実践」, 「透析液濃度管理の標準化を考える」

〈日台韓合同シンポジウム〉

「New developments in targeted substances for removal in blood purification therapy.」

〈ワークショップ〉

「透析患者の骨粗鬆症治療: 限られたエビデンスをどのように考えるか?」, 「長時間透析 ～その是々非々を問う～」, 「小児の腎代替療法選択」, 「透析施設における透析の IT 化や AI 化の取り組み」, 「透析施設における感染症対策～コロナウイルス感染症 before and after～」, 「透析情報の標準規格開発ならびに透析診療施設間連携支援の標準化」, 「透析関連モニタリング技術の最前線」, 「透析患者の低栄養対策 Up To Date」, 「透析医療事故の現状とその対策」, 「PD 療法における new パラダイム」, 「在宅血液透析の課題と展望」, 「透析システムにおける省エネルギー対策」, 「新規デバイスが普及してどう変わったか, 変わらないのか?」, 「末期腎不全緩和医療の診療ガイドへの模索」, 「足を知り, 足を守る看護実践」, 「次世代透析デバイスを臨床現場へ」, 「様々な腎代替療法選択支援の看護実践」, 「透析患者の CLTI 治療の最前線」, 「多職種で考える腎代替療法選択支援」, 「災害時の透析対策・避難所での透析患者の対応」, 「透析分野での医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアの進捗状況—臨床工学技士の告示研修の進捗状況と業務内容の変化—」, 「透析療法における腎臓リハビリと栄養管理」, 「CRRT における血液浄化膜を科学する」, 「高齢者透析患者の看護の実際」, 「透析患者での HIF-PHI の意義」, 「血液浄化膜の進歩と新しいダイアライザ・ダイアフィルタの必要性」

〈学会・委員会企画〉

「The status of dialysis patients in Asian countries under COVID-19 disaster : From the beginning to the era with COVID (2019-2023)」, 「病院研修に代わる対面式およびオンラインセミナーへの期待」, 「血液透析器の機能分類を再考する」, 「臨床研究から明らかになってきた透析患者の栄養課題」, 「機構認定サブスペシャリティについて」, 「Dialysis therapy, year in review 2022」, 「TSUBASA PROJECT」, 「WADDA システムをどう使いこなすか?」, 「The present status of conservative kidney management (CKM) in Asian countries」, 「次期〔2024〕診療報酬改定に向けての取り組み」, 「高齢者の末期腎不全医療を考える」, 「新技術で実現する血液浄化における知行合一」, 「透析患者の糖尿病治療ガイド改訂に向けて」, 「JRDR から世界へ～ハイインパクトな論文はいかに生み出されるか?～」, 「With コロナ時代における透析施設での感染対策」, 「国際標準の COI の考え方と COI 管理の実際」, 「透析医療事故と医療安全に関する調査報告」, 「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン改訂の方向性」, 「慢性腎臓病患者に特有の健康課題に適合した災害時診療体制の確保に資する研究の成果と提言」

#### 〈わかる！できる！やってみる！シリーズ〉

「エコーガイド下穿刺の基本～エコーの基礎と手技について～」, 「はじめよう在宅血液透析」, 「よくわかる透析患者の骨関節痛の原因と対策」, 「はじめてでもできる AI 入門」, 「論文発表したければデザイン力から磨きなさい」, 「コメディカルのための国際学会発表入門」, 「はじめよう学会発表! まずは症例報告から」, 「初学者でもわかる患者中心の医療」, 「よくわかる！透析患者の便秘対策」, 「過去の事例から学ぶ血液透析の問題点と解決への軌跡」, 「安静 12 誘導心電図の活用」, 「透析中の穿刺痛と血管痛を軽減させるためには」, 「はじめよう透析中エクササイズ」, 「ウレミックトキシシン入門」, 「初めてでもわかるカテーテル管理のポイント」, 「勤めてみよう 献腎移植登録」, 「よくわかる透析患者の認知症対策」, 「よくわかる透析膜の使い分け（除去性能と生体適合性）」, 「わかる貧血管理」, 「管理栄養士以外でもできる栄養指導入門」, 「よくわかる長時間透析」, 「よくわかる血圧変動対策」, 「CE でなくてもわかるオンライン HDF」, 「よくわかる透析患者へのアフレスシス」, 「よくわかる「体重増加の多い患者さん」への対応」, 「よくあるヒヤリ・ハット事例や医療事故への対策」, 「あなたも明日から患者さんへ説明できる腎移植」, 「腹膜透析を管理するために知っておくべきこと」, 「よくわかる透析患者における微量金属元素」, 「透析患者における悪性腫瘍：スクリーニングとその対策」

#### 〈企業共催シンポジウム〉

「HIP-PH 阻害薬の適正使用を目指して～網膜症／黄斑浮腫・悪性腫瘍・血栓塞栓症を中心に～」, 「CKD-MBD 治療における予後を踏まえた副甲状腺管理」, 「PD 診療のポテンシャルと臨床的意義」, 「明日からの CKD-MBD 管理を考える」, 「CKD-MBD 治療の未来予想図～変わるものと変わらないこと～」, 「HIF-PH 阻害薬の使い方を再考する～これまでとこれから～」, 「PD 管理の現状と今後の展望」, 「DOPPS Symposium」

#### 〈企業セミナー〉

ランチョンセミナー, スイーツセミナー, イブニングセミナー

#### 〈その他〉

医療倫理講習会

感染講習会

医療安全講習会

日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

※詳しくは総会ホームページをご確認ください。

#### 2) 通常総会

- (1) 第 68 回通常総会開催：2023 年 6 月 15 日（木）16：00～18：00
- (2) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催：2023 年 6 月 17 日（土）

#### 3) 役員会

- (1) 常任理事会・理事会開催：2023 年 6 月 1 日・6 月 15 日・12 月・2024 年 3 月
- (2) 監事による監査会開催：2023 年 5 月 16 日（火）

#### 4) 透析施設会員名簿の発行

施設会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

#### 5) 小委員会

- (1) 情報管理小委員会（脇野 修委員長）  
学会ホームページの円滑な運営、内容充実を図る。

- ① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。
  - ② コンテンツを見直し、逐次更新する。
- (2) 透析医療専門職資格検討委員会（酒井 謙委員長）
- ① 慢性腎臓病療養指導看護師（平成 29 年 9 月から施行）に関する助言と問題点への対策を行う。
  - ② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行う。
  - ③ 管理栄養士育成事業として、日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成（CKD 分野）における助言を行う。
  - ④ 腎代替療法専門指導士の応募専門資格・資格更新については、日本腎代替療法医療専門職推進協会と引き続き協議を継続する。
- (3) 統計調査のあり方小委員会（武本佳昭委員長）
- ① あらたな諸法の整備に適應して、統計調査実施の倫理基盤の確認を行う。
  - ② 統計調査結果の解析、論文化の計画の明確化、会員施設へのインセンティブを検討する。
  - ③ 統計調査委員会と意見交換を行い、統計調査の IT 化の方向性を模索する。
  - ④ 統計調査データの WEB 収集及び EDC（electric data capture）システムに関わる調査等を実施し、具体的な仕様を統計調査委員会と合同で検討する。
- (4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会（山下明泰委員長）
- ① COVID-19 への対応が世界的に見直されつつある中、研修事業の再開は慎重に議論する。
  - ② 昨年度実施したオンライン研修を改善して、継続することを前提に準備を進める。
  - ③ 各国、各施設に対する個人または他の組織による支援活動を継続する。
  - ④ 一昨年度から計画していた「発展途上国における透析医療に関するコンソーシアム」（仮称）の設立は、国際的な往来が自由にできるようになるまでは休止する。
- (5) 本学会のあり方小委員会（武本佳昭委員長）
- ① 公益社団法人への移行について継続した審議・検討を行う。
  - ② 一般の人にも分かりやすい本学会の立ち位置・特徴などについて検討し公開していく。特に現在重要な案件である透析専門医に関して日本専門医機構との意見交換を行いながら、認定に向けて検討を進める。
- (6) e-ラーニング検討小委員会（菅野義彦委員長）
- ① 2023 年 6 月開催の第 68 回日本透析医学会学術集会・総会における生涯教育プログラムの教育講演から座長・演者の同意を得て、スクリーンアウト方式の動画を収録しコンテンツとする。コンテンツには「医療安全」、「災害」、「倫理」、「感染」を含むように配慮する。
  - ② 各演者には試験問題の作成を依頼し、e-テストにより専門医更新の単位認定に利用する。専門医の単位認定は、連続した 60 分の講演 1 回または 30 分の講演 2 コマを連続して視聴し試験に正答することで 1 単位を認定、年間 5 単位、5 年間で 25 単位を上限とする。ただし学術集会に参加してすでに生涯教育プログラムの 5 単位を取得した者は同年度の e-ラーニングでの単位は認定しない。
  - ③ 単位認定を希望する者は認定料 3,000 円を支払う。運用については専門医制度委員会と適宜意見交換を図る。なお、専門医以外の正会員（専攻医を目指す医師を含む）及び施設会員に所属する医療従事者もスキルアップのための視聴を可能とする。配信の開始時期などは本学会ホームページ及び会誌の会告で会員に通知する。
- (7) 病気腎移植に関する検討小委員会（酒井 謙委員長）
- 2017 年 10 月 29 日 病気腎移植（修復腎移植）が先進医療 B として厚生労働省に認可された。これに対して、日本泌尿器科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本移植学会の 5 学会は合同で、外部委員からなる適切な当該医療の検証（外部委員派遣）が必要であるとの声明を出した。申請医療機関からの申請に対して、日本透析医学会は事前検証としての外部委員選定を 2018 年度に行った。その後の進捗であるが、現在まで先進医療 B 症例は、当該医療機関から申請されていない。

2023年度においても、申請医療機関からの修復腎移植申請があった場合には、速やかに外部委員を派遣し、レシピエント、ドナーの双方に不利益が生じないように、先進医療を注視していく任を遂行する。

(8) 書籍発行運営委員会（長谷川元委員長）

日本透析医学会ブックシリーズとして、今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討する。

(9) 新型コロナ感染対策合同委員会（竜崎崇和委員長）

日本透析医会、日本腎臓学会と合同で活動している「新型コロナウイルス感染対策合同委員会」に、日本透析医学会感染対策委員会から数名の委員を派遣し、他の2学会と強調し、活動を継続する。

(10) 台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会（友 雅司委員長）

① 第68回日本透析医学会学術集会・総会において、同シンポジウムを開催する。

日程：会期 2023年6月16～18日

テーマ：「血液浄化療法における Uremic toxin の展開」

日本側座長：未定

演者：未定

韓国、台湾からそれぞれ座長、演者が発表予定。

② 開催日時：2023年4月29日（土） 12：50～14：50

開催地：韓国ソウル特別市内で実体開催

テーマ：「Vascular access in the elderly HD patients」

(1) 座長：深澤瑞也（加納岩総合病院）

(2) 演者：長沼俊秀（大阪公立大学）

小川智也（埼玉医科大学）

③ 台湾腎臓学会 2023年12月（未定）

(11) VA 血管内治療認定医委員会（深澤瑞也委員長）

① 昨年度のVA血管内治療認定医委員会の認定作業時に生じた様々な事務手続き上の問題点および疑義解釈を中心に本年度の申請に関する改善点をまとめる。また、申請者にわかりやすいようにQ&Aスタイルでまとめ、HP上に公表を行う予定。また、本年度の申請に対する条件を会員に可及的速やかに公表し、本年度の申請に向けての準備を行っていくこととする。

② 申請作業は昨年度構築した申請システムを用いて昨年同様の秋からの申請、その後の審査を委員に依頼し判定を行う。生じた疑義に関しては新しい判定基準に基づき再審査し、最終的な疑義は委員全員の合議により判定を行う。結果は理事会に報告し最終決定とし本人に対して結果発表並びに認定証の交付を行うこととする。また、本年度の申請においても、生じた問題点、疑義解釈に対しては昨年度同様に委員会内で統一見解を作製し翌年度以降の委員会への申し送りを行う。

6) 学会との連携、協力関係

(1) 日本医学会、(2) 日本医学会連合、(3) 日本医師会、(4) 日本慢性腎臓病（CKD）対策協議会、(5) 透析療法合同委員会、(6) 内科系学会社会保険連合、(7) 外科系学会社会保険連合、(8) 臓器移植関連学会協議会、(9) 末期腎不全治療説明用小冊子作成、(10) 糖尿病性腎症合同委員会、(11) 登録腎生検予後調査検討委員会、(12) 先行的献腎移植申請検査会、(13) 透析療法に関するグランドデザイン、(14) 日本透析医会との連絡協議会、(15) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力、連携を密にしていく。

## 2. 財務委員会

平成20年12月に新公益法人制度が施行され、これに伴い本学会も平成24年9月3日付けをもって、一般社団法人に移行した。一般社団法人への移行とともに本学会の財務管理を平成20年度改正の新・新公益法人会計基準

に則り、新・新基準による経理を実施し、貸借対照表および正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして、より適切な財務管理を目指す。

以上を踏まえて、税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し、学会として各常置委員会、小委員会の諸事業を積極的に推進し、多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成するとともに財務業務の全般的な見直しを継続して検討する。

### 3. 編集委員会

#### 1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊、年間12冊を発行する。
- (2) Year in Review 2022 の原稿を受け、2023 年和文誌 56 巻のしかるべき号に掲載する。
- (3) 統計調査委員会年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を2023 年和文誌 56 巻 12 号に掲載する。
- (4) 学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement として発行する。郵送は希望者のみに限定する。
- (5) 年間1回を目安として特集号を組んでいたが、Invited Review という形でその領域の専門家に依頼し、掲載していく。
- (6) 和文誌論文の完全オンライン化について検討していく。会告などの重要な情報のみ冊子体として発行する。

#### 2) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) について

- (1) 引き続き Web Journal として Open Journal の形式で、CC-BY の著作権で引き続き発行する。
- (2) すでに PubMed Central での Index 化の再申請を2020 年中に行ったが、不採択の審査結果であった。2023 年に再申請を行う。
- (3) 2023 年6月に Journal Citation Reports (JCR) の Impact Factor を取得予定である。
- (4) RRT 誌は下記の9学会の公式英文誌となっている。これらの各学会のガイドラインや報告レポートなどを Position Paper として順次出版する。
  - ・ Japanese Society for Dialysis Therapy (JSdT)
  - ・ Japanese Society for Clinical Renal Transplantation (JSCRT)
  - ・ Japanese Society for Peritoneal Dialysis (JSPD)
  - ・ Japan Society for Blood Purification in Critical Care (JSBPCC)
  - ・ Japanese Society of Renal Rehabilitation (JSRR)
  - ・ Japanese Society of Nephrology and Pharmacotherapy (JSNP)
  - ・ Japanese Society for Pediatric Renal Failure (JSPRF)
  - ・ Japan Academy of Nephrology Nursing (JANN)
  - ・ Japanese Society for Technology of Blood purification (JSTB)
- (5) すでに採用済の海外からの Editorial Member を Advisory Board Member として引き続き編集業務の関与を依頼する。
- (6) 新規には本邦在住者の Editorial Member 増強が必要な状況であり、採用各学会に人材の推薦依頼するとともに、独自にも Editorial Member (Associate Editor および Editorial Board) を採用増強する。
- (7) 台湾腎臓学会・韓国腎臓学会・日本透析医学会の3学会合同シンポジウムが、第68回日本透析医学会学術集会・総会に開催される予定である。その各国の講演内容を報告として掲載を交渉する。
- (8) 120 編の投稿を目標とし、本邦以外の国と地域からの投稿促進努力を行う。
- (9) 年間掲載論文の研究内容および英文の質の向上を追求する。その結果として、アクセプト率の低下も許容する。

## 4. 学術委員会

### 1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。

### 2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議

学術委員会の会合を定期的で開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行する。

### 3) 栄養問題検討ワーキンググループ（神田英一郎グループ長）

#### (1) 「慢性透析患者の食事療法基準 2014 年」の見直し

① 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会にて、栄養問題検討ワーキンググループ企画「臨床研究から明らかになってきた透析患者の栄養課題」の開催を予定している。

② 透析患者の栄養摂取基準について、文献的調査を行う。

#### (2) 大塚製薬工場からの研究助成金受入れに伴う臨床研究の実施

臨床研究の準備を引き続き行い、開始する予定である。

### 4) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキング（深川雅史グループ長）

今後も、各章のグループ毎のウェブ会議と、主に学会時の対面の合同グループ会議を行い CQ に基づくステートメントを作成するとともに、エビデンスが十分でない点については、クリニカルポイントとして整理を進めていく。2023 年末までに、パブリックビューを受ける段階まで進み、年度末には最終版の承認を受け出版に至る予定としている。

### 5) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ（阿部雅紀グループ長）

2023 年内に透析患者の糖尿病治療ガイドの改訂作業を終了し、パブリックコメントを募集する。

### 6) 慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン改訂ワーキンググループ（倉賀野隆裕グループ長）

(1) 2023 年度も必要に応じてガイドライン改訂委員会の開催する予定である。

(2) 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会において進捗状況を報告する予定である。

### 7) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）

バスキュラーアクセスガイドライン追補に向けて、人工血管被覆ステント並びに薬剤塗布バルーンの 2 製品に関して、論文の収集が完了次第、委員会を開催し各担当グループを形成し追補原案を作製する。その後、他の委員による査読を行い原案を決定する。その後パブリックコメントを求める予定。

### 8) 小委員会活動

#### (1) 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）

① Dialysis Therapy, 2022 year in review を第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（2023 年 6 月）において委員会企画として開催する。

② 各演者の先生に Dialysis Therapy, 2022 year in review の発表内容の投稿を依頼する。

#### (2) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友 雅司委員長）

① 日本透析医学会、日本透析医会、JACE（日本臨床工学技士会）との 3 団体共同「透析排水管理ワーキンググループ（峰島三千男グループ長）」：透析排水の適正管理についてさらなる検討を行い、その成果に関する啓発活動を行う。

② ISO・IEC 対策ワーキンググループ。（川西秀樹グループ長）：ISO・IEC 対策ワーキンググループ：日本の見解を反映させるべく ISO・IEC 会議に委員を派遣し討議を行う。

③ 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画「血液透析器の機能分類を再考する」を開催する。

④ 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会、委員会報告「血液透析濾過器の性能評価と使い分け」を出版する。

(3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

- ① 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会に引き続き、第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（2023 年 6 月）においても委員会で議論した成果を、委員会企画「新技術で実現する血液浄化における知行合一」で公表する。
- ② 委員会の成果を具体化するために、臨床的な検討やものづくりに向けたシステム構築を進める。2023 年度は、そのために検討が必要な事象（特許、PMDA の判断など）を洗い出す。コロナ禍での慣習に従い委員会は、今年度もオンラインで 2 回開催する。各委員の研究進捗報告のみならず、問題点解決に向けて互いの協力体制の強化を図る。さらに、今後の活動資金（これまでは各委員が独自に捻出している）の獲得についても検討する。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（阿部雅紀委員長）

- ① 体験参加型セッションの開催
- ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催、学術集会での開催を目指す。Web を利用した開催も検討していく。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（脇野 修委員長）

例年通りの方法で適切な応募研究課題の中から選考する。

(6) 透析医学用語集作成小委員会（土谷 健委員長）

先の透析医学用語集が平成 19 年度のものであり、新しい用語・古くなった用語等もあるので、基本的に用語集を改訂する方針とし、実際の作業を開始する。関連学会として、「日本腎臓学会」「日本アフレス学会」及び「日本急性血液浄化学会」からの委員に参加を仰ぎ、「日本腹膜透析医学会」に可能なら委員の派遣を依頼する。日本腎臓学会用語委員会と連携して用語集の改定に向けて活動する。

## 5. 統計調査委員会

1) 2022 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況の調査・報告

- (1) 2022 年調査結果を 2023 年学会誌 56 巻 12 号に、英文報告書を RRT 誌に掲載する。
- (2) 本学会和文、英文のホームページに調査結果を掲載する。
- (3) 2022 年調査結果を統計調査データベース、WADDA システム、学術研究用データ切出しシステムに取り込む。
- (4) 調査協力いただいた非会員施設には、「わが国の慢性透析療法の現況 2022 年 12 月 31 日現在 CD-ROM 版」を作成し、配布する。

2) 2023 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施

- (1) 2023 年末調査の新規調査項目を選定する。
- (2) 2023 年末の調査計画について倫理審査を依頼し、承認後 UMIN に公開する。
- (3) 全国の透析施設に対して 2023 年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施する。

3) WADDA システム、学術研究用データ切出しシステムの改善

- (1) WADDA システム、学術研究用データ切出しシステムに 1983～1999 年のデータを取り込む。

4) 統計調査管理台帳システムの改善

- (1) 統計調査管理台帳システムをさらに改善するため、一部システム変更を行う。

5) 統計調査データを活用した研究活動の推進・論文化

- (1) わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために、現在までに蓄積されたデータを解析し積極的に論文化を行い、日本人のエビデンスの構築を行い、将来のガイドライン作成等に備える。
- (2) 公募研究を再開し、特に若手研究者の統計調査データを用いた研究への参画を進める。

6) レジストリ国際協調への課題の明確化（継続事業）

- (1) ISN 主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトである SharE-RR へ参加する。
- (2) 国際レジストリ協調に求められる要件の明確化, JRDR の将来の改修方針の明確化

7) 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会における以下のセッションの開催

- (1) 統計調査委員会企画：「WADDA システムをどう使いこなすか？」
- (2) 統計調査委員会企画：「JRDR から世界へ～ハイインパクトな論文はいかに生み出されるか？」

8) 国内・国際協力の推進

- (1) 日本透析医会を始めとした他学術団体, さらには United State Renal Data System, Australia New Zealand Data System, European Real Association / European Dialysis Transplantation Association 等の海外レジストリと連携し, データ供与や解析を行う。

9) 英語版ホームページの充実（継続事業）

- (1) 透析医学会の統計調査の海外への発進力を高めるために, 統計調査のホームページを充実させる。
- (2) 英語版ホームページには英語版現況報告の PDF, 英語版図説 PPT, 統計調査の歴史やシステム, これまでに発表された論文一覧などを提示する。

10) 会員インセンティブの充実

- (1) 統計調査への理解を深め, 会員のニーズを知るため, 地域協力員メーリングリストで引き続き積極的な情報提供に努める。
- (2) 帳票出力システムの利用を推進する。

11) Web によるデータ収集の可能性についての情報収集

- (1) 現在 USB メモリでデータ収集を行っているが, USB メモリに内在する様々なリスクを低減するため, Web によるデータ収集を併用することの可能性について, 情報収集を行う。

解析小委員会

- 1) 各小委員は既存データベースを用いて, 慢性透析医療の将来に必要とされる様々なテーマについて解析を行い学会報告, 論文化を行う。
- 2) 新たな研究テーマの提案に対して採否の意見をまとめ, 委員会に審議を依頼する。
- 3) 既存研究テーマの進捗状況を小委員会で定期的に報告し, 相互にブラッシュアップする。
  - (1) データベースのデータクリーニングの統一的な規則を策定する。
  - (2) 公募研究のサポート, 進捗の確認を行う。

## 6. 専門医制度委員会

透析専門医は, 大学病院や基幹病院へ集中する傾向が強い他領域の専門医とは異なり, 全国の透析施設すべてに 1 名以上の勤務配置することを目標とする。基本知識・診療技術は勿論, ・手術・処置技術・倫理・医療安全・感染対策・災害対策などに対する総合的能力を身に付けることを第 1 義とする。内科・泌尿器科の垣根を越えた総合診療により, 患者ともに長期間診療を行う専門医制度がむしろ必要である。基本領域とサブスペ領域の専門研修カリキュラムとの調和は, 腎臓機能を失ったうえでの特殊な診療技能にて, 補完研修ではなく独立した通常研修に該当すると考える。

- 1) 透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることを目指して, 現行および施行時期理事会一任の専門医制度規則・規則施行細則については, 必要に応じて見直しを審議する。
- 2) 血液浄化法に関する生涯教育の一環として, 全国を日本透析医学会専門医制度施行細則第 2 条の 10 地区に分け, 年 1 回各地区の各地方学術集会にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して, 専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が 1 つの地方学術集会を推薦し, 専門医等認定事業経費から助成金を支給する。

- 3) 透析専門医は、日本内科学会と日本泌尿器科学会との透析領域の個別協議会（小委員会）で、基本領域専門医を透析医療と関連が深い横断的6領域（総合内科専門医、泌尿器科専門医、外科専門医、小児科専門医、救急専門医、総合診療専門医）のサブスペシャリティ領域として、専門研修カリキュラムを改訂する。
- 4) 各小委員会で整備した内容について検討する。
  - (1) 研修プログラム小委員会
    - ① 基本領域専門医制度と連携した透析研修カリキュラム第4版の作成を検討する。
  - (2) カリキュラム小委員会
    - ① 透析専門医としての「質」を継続維持していくために、「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。本年度は専門研修トレーニング問題解説集の改訂第5版、専門研修指導マニュアルの改訂第5版の出版を目指す。このための目次（大中小項目）の改正に着手した。
    - ② 学術集会・総会の教育講演オンデマンド視聴による単位認定のためのe-ラーニング問題についてのブラッシュアップを行う。
  - (3) 専門医認定小委員会
    - ① 専門医と指導医の新規認定と更新を行う。
    - ② 専門医認定制度に係る諸問題（適正な専門医数、専門医の地域偏在）をワーキンググループで検討を継続する。
    - ③ 地域偏在・施設偏在の解消のために、専門医数と施設数が少ない地域の基幹病院に調査を行い、立案した具体策について、偏在を解消する方策を個別に検討する。
  - (4) 専門医試験小委員会
    - ① 2023年度専門医試験を適切な感染対策のもと実施する。
    - ② 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、倫理・安全対策・感染対策・災害対策に関する問題を含む客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）と口答試問試験の3者の総合的な判断で行い、医師国家試験に準拠した試験問題作成基準を用意し、可否を決定する予定である。
    - ③ 専門医試験プール問題約800題の中で、優良でない試験問題（優良の定義：正答率50～70%かつ識別指数0.2～0.4以上）をブラッシュアップする。また、新規に問題を作成し、写真や図表問題も多くする予定である。
  - (5) 施設認定小委員会
    - ① 認定施設と教育関連施設の新規認定と更新を行う。
    - ② 今後の透析専門医認定に備えて、専門研修基幹施設と専門研修連携施設の施設群の形成をさらに進める。

## 7. 国際学術交流委員会

第68回日本透析医学会学術集会・総会において下記2つのシンポジウムを行う予定である。

また本年度は海外からの一般演題のセッションを実施する予定。Farewell partyは開催しない予定である。

- 1) シンポジウム (1) The status of dialysis patients in Asian countries under COVID 19 disaster : From the beginning to the rea with COVID (2019-2023)  
 予定演者：Sung Gyun, Viet Le Thang, I. Gde Raka Widiana, Georgi Abraham, Teo Boon Wee Jimmy, 竜崎崇和
- 2) シンポジウム (2) The present status of conservative kidney management (CKM) in Asian countries.  
 予定演者：Hy Chanseila, I. Gde Raka Widiana, Noot Sengthavisouk, Bui Pham Van, Georgi Abraham, 岡田一義

## 8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会第7回評議員選挙

日本透析医学会定款第20条, 21条, 22条及び日本透析医学会定款施行細則第14条, 15条, 16条並びに日本透析医学会評議員選出規則に則り第7回評議員の選挙を行う。

- 1) 評議員選出規則第3条に基づき, 選挙は全国統一地区と7の地方区に分けて行う。
- 2) 同規則第6条に基づき, 定数220名の評議員を選出しその内80名は全国区, 140名は地方区とする。
- 3) 同規則第7条に基づき, 令和5年学会誌10号に選挙の公示をし, 10月下旬に電子公告を行う。
- 4) 同規則第9条第1項に基づき, 令和5年10月1日現在の有権者名簿を, 学会誌10号に公示し, 10月下旬に電子公告を行う。
- 5) 立候補者しようとする者に, 会員専用ホームページにおいて, 選挙結果情報(有権者数, 投票者数, 投票総数, 有効投票数, 白票, 無効枚数及び得票率)並びに立候補者の得票及び得票率を開示することを前もって周知する。
- 6) 同条第2項に基づき, 11月20日までに有権者名簿について, 異議の申し立てを受ける。
- 7) 同規則第11条第1項に基づき, 11月20日までに立候補の届け出を受ける。
- 8) 同条第4項に基づき, 12月1日までに立候補の辞退を受ける。
- 9) 同規則第12条に基づき, 候補者の氏名を令和5年学会誌56巻12号に公示し, 12月下旬に電子公告を行う。
- 10) 同規則第13条に基づき, 令和6年2月15日に投票を締め切る。
- 11) 同規則第16条に基づき, 投票終了後ただちに開票立会人のもとに, 開票を行う。
- 12) 同規則第21条に基づき, 当選者が決定した場合, 当選者に通知し, 会誌公示し, 電子公告を行う。また, 会員専用ホームページにおいて, 選挙結果情報(有権者数, 投票者数, 投票総数, 有効投票数, 白票, 無効枚数及び得票率)並びに立候補者の得票数及び得票率を開示する。
- 13) 同規則第22条に基づき, 選挙結果発表日より14日以内に選挙効力に関し異議申し立てを受ける。

## 9. 保険委員会

2024年の診療報酬改定に向けて, 学会員に問題点や希望を挙げてもらい, 内科系学会社会保険連合(内保連), 外科系学会社会保険委員会連合(外保連), 日本腎臓学会, 日本小児腎臓学会, 日本アフェリシス学会, 日本急性血液浄化学会, 日本腹膜透析医学会, 日本透析医会, 日本泌尿器科学会と提案項目の検討を行い, 内保連および外保連を通じて厚生労働省に提案する。

日本透析医学会保険対策ワーキンググループを保険委員会内に設置しており, 将来の透析医療の診療報酬を考え, 学会員からのニーズに基づき, どのようにエビデンスを構築していくかを引き続き議論していく。

外保連からは

- ① 透析用カテーテルの注射コードから手術コードへの転換要望

内保連からは

- ① 新興・再興感染症に対する外来トリアージ加算: COVID-19の診療報酬への重点がなくなり今後新興・再興感染症が生じた際に透析施設における外来透析の継続性を担保するために新規に申請した。
- ② 「血清セレン濃度測定」の測定制限の緩和: 臨床栄養学会と共同申請することとした。
- ③ 在宅血液透析患者における遠隔管理加算: 現在PDには認められているものと同じ在宅透析としてHHDは認められておらず申請する。

第68回日本透析医学会学術集会・総会に向けて委員会企画を提案した。

- ① 診療報酬のアプローチ法(内保連, 外保連) 川西秀樹先生
- ② 新興・再興感染症に対する外来トリアージ加算 菊地 勘先生

- ③ 在宅血液透析患者における遠隔管理加算 本間 崇先生
- ④ 体外循環用カテーテルに対する診療報酬のアプローチ 深澤瑞也先生

## 10. 倫理委員会

- 1) 日本透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して、適時委員会を開催し審議する。
- 2) 日本透析医学会として対応すべき研究倫理に関する課題に対して、随時、研究倫理に関する検討小委員会を開催し検討する。
- 3) 個人情報安全管理ならびにその適切な取扱をするため、個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

## 11. 腎不全総合対策委員会

本委員会では腎代替療法へのスムーズな移行や、透析・移植患者のQOLの改善を目標に、毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2022年度にまとめた患者QOL向上のための会アウトカムに関する検討では、若年者と高齢者で重要度の高いキーワードに違いを認めている。腎代替療法へのスムーズな移行に関して、本委員会では保存期CKDからの良好な移行がその後の予後に与える影響に関して検討し、アクセスの作成と管理の影響を報告した。2023年度は高齢者の末期腎不全対策を主要なテーマとして学会企画を実施するとともに、腎代替療法へのスムーズな移行に関する活動を計画した。

### 1) 腎代替療法へのスムーズな移行に関する検討

本委員会では腎代替療法へのスムーズな移行に関する検討として、透析導入前から透析導入期にかけてバスキュラーアクセス作製の実施時期や作製を担当した医師（診療科など）、導入期のアクセス使用状況、インターベンションの必要性、などの実態調査を2022年度に実施した（2022年度概算要求済み）。その結果を集計して解析し、論文化を目指す。

### 2) 高齢者の末期腎不全対策

第68回日本透析医学会学術集会・総会で「高齢者の末期腎不全医療を考える」と題して委員会企画を開催する。

司会：伊藤孝史（島根医科大学）、小岩文彦（昭和大学藤が丘病院）

演者

- (1) 療法選択の十分な説明とその課題 満生浩司（医療法人原三信病院）
- (2) 高齢者におけるアクセス作製の問題点 深澤瑞也（加納岩総合病院）
- (3) 高齢者の腹膜透析 櫻田 勉（聖マリアンナ医科大学）
- (4) 高齢血液透析患者の感染対策 中村 造（東京医科大学）
- (5) 腎代替療法導入困難、非導入の選択とその対応 酒井 謙（東邦大学）

## 12. 危機管理委員会

### 1) 危機管理委員会

- (1) 透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行う。
- (2) 医療安全、災害対策に関して、日本透析医会、日本腎臓学会、日本腎不全看護学会、日本臨床工学技士会などの関連団体と緊密に連携する。

### 2) 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

- (1) 第68回日本透析医学会学術集会・総会（2023年6月16日～18日、神戸コンベンションセンター）に

において、災害に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「慢性腎臓病患者に特有の健康課題に適合した災害時診療体制の確保に資する研究の成果と提言」とし、以下の内容で行う。さらに、その内容を委員会報告としてまとめ、日本透析医学会雑誌に掲載する。

司会：鶴屋和彦，山川智之

演題・演者

- ① 透析施設における災害時透析医療体制に関する調査研究 山川智之 仁真会白鷺病院
- ② 透析患者の災害への準備に関する調査研究 赤塚東司雄 赤塚クリニック
- ③ 大規模災害時における医薬品の供給に関する報告 雨宮守正 さいたま赤十字病院内科
- ④ 地方における県をまたいだ実際の災害対応，情報通報手段の利活用に関する調査研究  
宮崎真理子 東北大学腎・膠原病・内分泌内科学分野
- ⑤ 東京都における災害時透析医療体制の確保に関する調査研究  
花房規男 東京女子医科大学血液浄化療法科
- ⑥ 災害時における情報共有ならびに行政等との連携に関する調査研究 森上辰哉 元町 HD クリニック

- (2) 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会（2022 年）の委員会企画の発表内容を日本透析医学会雑誌へ掲載する。
- (3) 原発事故の避難体制について取り上げていく。原発事故に対する対応について新しい情報があれば、今後メールで情報共有していく。
- (4) 日本透析医学会の理事，危機管理委員会，統計調査委員会，地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し，災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する。

### 3) 医療安全対策小委員会（満生浩司小委員長）

- (1) 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（2023 年 6 月 16 日～18 日，神戸コンベンションセンター）において，医療安全に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「透析医療事故と医療安全に関する調査報告」とし，以下の内容で行う。さらに，その内容を委員会報告としてまとめて日本透析医学会雑誌に掲載する。

司会：鶴屋和彦，満生浩司

演題・演者

- ① 調査報告の概要 安藤亮一 医療法人社団石川記念会腎臓内科
  - ② 抜針事故 木全直樹 中野南口クリニック
  - ③ 転倒・転落事故 土屋和子 横須賀クリニック
  - ④ 透析操作に関連した事故 山家敏彦 神奈川工科大学健康医療科学部臨床工学科
  - ⑤ 調査報告を今後の医療安全にどう生かすか 宮崎真理子 東北大学腎・膠原病・内分泌内科学分野
- (2) 医療事故調査報告制度に協力団体として，センター調査などを担当する。
  - (3) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し，必要に応じて委員の更新を行う。
  - (4) 厚生労働省などから報告される薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で，透析医療に関わるものについて，日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図る。

## 13. 研究者の利益相反等検討委員会

- 1) 「日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針」に基づき，会員の利益相反状態に関連した以下の事項について実施する。
  - (1) 会員が総会等で発表する利益相反状態に関する情報開示
  - (2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出

- (3) 本学会の役員（理事長，理事，監事），総会会長，委員会委員長，特定の委員会並びにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
  - (4) その他，会員に関連した利益相反状態や，自己申告内容に関する管理を必要に応じて行う。
  - (5) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討，審査請求に関する判断マネジメントを行う。
  - (6) 日本医学会 COI 管理部会等の講演会，会議に学会として出席し，最新情報を得る。
- 2) 今後も「日本医学会 COI 管理ガイドライン」の一部改正などが行われた場合には，委員会で検討し，理事会の承認を経て，これを周知していく。
  - 3) 日本医学会 産学連携健全化ワーキンググループによる企業主催講演会における学術講演会内容介入状況のアンケート調査報告書 2023 の問題点と課題に対して当委員会において検討を行い一定の見解をまとめて理事会に答申する。

## 14. 男女共同参画推進委員会

### 1) 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会，女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況，展望についての寄稿，編集を進める。

### 2) 小委員会

#### (1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会のそれぞれの働き方改革について各学会の経緯と現状を検討する。第 68 回日本透析医学会学術集会・総会の議題とする。あるいは，学会誌報告とする。

#### (2) 女性医師育成小委員会

##### I. 委員会企画「TSUBASA PROJECT」について

第 68 回日本透析医学会学術集会・総会において，委員会企画「TSUBASA PROJECT」を開催する。第 6 回「TSUBASA PROJECT」の応募課題を発表する。発表後，論文化し日本透析医学会ホームページに掲載するとともに，日本透析医学会雑誌あるいは RRT へ投稿する。第 7 回「TSUBASA PROJECT」に選出された研究を発表し，日本透析医学会ホームページに掲載する。

##### II. 第 8 回「TSUBASA PROJECT」について

第 8 回「TSUBASA PROJECT」を公募する。

「TSUBASA PROJECT」は女性医師の研究活動を奨励，援助し，それによって透析医療の向上，女性の活躍を推進させることを目的とし，優れた研究に対して研究助成を行うものである。

対象者：JSDT 正会員の女性医師

応募研究：透析医療に関する基礎研究，臨床研究であること，特に“透析と性差”について，未発表であること。

募集形式：公募，年次募集

募集研究数：最大 6 題

公募期間：2023 年 5 月 1 日から 2023 年 10 月末日

研究の選出：応募研究の中から女性医師育成小委員会の委員が優秀な研究を 6 題選出し，JSDT 理事会に答申，理事会が最終決定する。選出された研究は JSDT 学術集会・総会の委員会企画 TSUBASA PROJECT で発表する。

研究助成：選出された優秀研究には研究助成として一件 20 万円を授与する。また、JSDT 理事会において承認後 2 年以内に英文論文化した場合には、さらに 20 万円の論文化支援助成金が寄与される。なお、論文化した場合には、謝辞に JSDT 男女共同参画推進委員会、女性医師育成小委員会を加筆いただく。

### Ⅲ. 「TSUBASA PROJECT」の公報

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し、第 68 回日本透析医学会学術集会・総会にブース設置とポスター掲載をする。ポスター作成費は 2023 年度概算要求する。

### Ⅳ. 透析医療従事者の働き方の実態調査について

日本透析医学会の専門医制度委員会・男女共同参画推進委員会は、2014 年と 2016 年に「透析専門医の勤務実態・管理状況・診療実態に関するアンケート調査」、「透析施設の男女共同参画に関するアンケート調査」を実施した。さらに、男女共同参画推進委員会は 2020 年に「透析医療に従事する医師の働き方に関する実態調査」のアンケート調査を実施した。そして、透析医療従事者の働き方改革の実施に向け、これより 2 年毎に透析医療従事者の働き方の実態調査を行うことにした。2022 年度においても「透析医療に従事する医師の働き方に関する実態調査」をアンケート調査する予定であったが、COVID-19 等の理由により実施できなかった。そのため、2023 年度にアンケート調査を行う予定である。調査費は下記の科目で 2023 年度概算要求する。

概算要求経費の詳細：

通信運搬費：アンケートの配付・回収

印刷製本費：アンケート調査票、返信用封筒

委託費：アンケートの解析

## 15. 感染対策委員会

### 1) 新型コロナウイルス感染対策合同委員会

日本透析医会と日本腎臓学会との新型コロナウイルス感染対策合同委員会としての活動を継続して、透析患者における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者数の把握、ワクチン接種や治療の状況、および重症度や致死率を、会員に向けて定期的に報告する。

また、新型コロナウイルス感染対策合同委員会のデータに基づき、透析患者へのワクチン接種の推奨、透析施設での感染対策および感染患者への推奨される治療を啓発して、COVID-19 の感染拡大の予防と患者の感染リスク低減や感染後の重症化リスクの低減に努める。

### 2) COVID-19 の感染症法上の位置づけ変更に対する透析施設での対応

2023 年 5 月 8 日に、COVID-19 の感染症法上の位置づけが、「2 類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5 類」に移行される予定である。この「5 類」への移行に伴い、全国の透析施設で混乱が起きないように、新型コロナウイルス感染対策合同委員会と連携して、ガイドあるいは提言を作成し会員に啓発する。

### 3) 透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン改訂に向けたワーキンググループ

2022 年 11 月 11 日より、日本透析医会の発行する「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン（五改訂）」の改訂ワーキンググループが発足した。当学会と日本透析医会、日本腎臓学会、日本環境感染学会、日本臨床工学技士会、日本腎不全看護学会の 6 団体での協力で改訂作業が行われており、2024 年 12 月に策定される予定である。この「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン改訂に向けたワーキンググループ」には、菊地 勘、竜崎崇和、吉藤 歩の 3 名が当学会からの推薦委員として参加、菊地 勘がワーキンググループの委員長を務めている。

4) 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会における感染対策委員会企画

①「With コロナ時代における透析施設での感染対策」(120 分)

司会：菊地 勘 (下落合クリニック腎臓内科), 竜崎崇和 (東京都済生会中央病院腎臓内科)

演題 (演者)：

- (1) With コロナ時代に求められる透析施設での感染対策  
(中村 造 東京医科大学病院感染制御部)
- (2) 血液透析患者の COVID-19 予防・診療体制調査からみる感染対策の現況  
(菅原有佳 東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科)
- (3) 東京都における COVID-19 透析患者への行政としての対応  
(渡部ゆう 東京都福祉保健局疾病対策課)
- (4) COVID-19 透析患者の現況とモルヌピラビル (ラゲブリオ) の効果  
(菊地 勘 下落合クリニック腎臓内科)
- (5) 透析患者における新型コロナウイルスワクチンへの反応性と効果  
(吉藤 歩 慶應義塾大学医学部感染症学)
- (6) 腎移植患者に対するチキサゲビマブ/シルガビマブ (エバシエルド) の効果  
(山永成美 熊本赤十字病院第一外科)

②「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン改訂の方向性」(120 分)

司会：菊地 勘 (下落合クリニック腎臓内科), 安藤亮一 (医療法人社団石川記念会腎臓内科)

演題 (演者)：

- (1) ガイドライン改訂の方向性  
(菊地 勘 下落合クリニック腎臓内科)
- (2) 透析操作と感染対策 (カテーテル管理を含む)  
(谷口弘美 東葛クリニック病院看護部)
- (3) 透析環境の清掃と消毒  
(増田直仁 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓・高血圧内科)
- (4) HBV・HCV の管理と治療  
(豊田秀徳 大垣市民病院消化器内科)
- (5) HIV のスクリーニングと感染対策  
(日ノ下文彦 帝京平成大学健康医療スポーツ学部看護学科)
- (6) 梅毒のスクリーニングと感染対策  
(西野友哉 長崎大学病院腎臓内科)
- (7) 水痘・帯状疱疹ウイルスへの感染対策とワクチン  
(吉藤 歩 慶應義塾大学医学部感染症学)